



2026年2月13日

各位

会社名 株式会社アゴーラ ホスピタリティグループ
代表者名 代表取締役会長 ウィニー・チュウ・ウィン・クワン
(コード：9704、東証スタンダード)
問合せ先 財務経理部 部長 石井 伸幸
(TEL. 03-3436-1860)

連結および個別業績の予想値および前期実績との差異に関するお知らせ

2025年12月期の連結業績および個別業績の予想値および前期実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025年12月期連結業績予想数値と実績値との差異(2025年1月1日～2025年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,500	850	800	1,400	5.29
今回実績 (B)	9,908	1,055	869	1,274	4.82
増減額 (B-A)	408	205	69	△ 125	
増減率 (%)	4.3%	24.2%	8.7%	-9.0%	

2. 2025年12月期通期個別業績と前期実績値との差異(2025年1月1日～2025年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	341	△ 285	△ 286	△ 580	△ 2.28
当期実績 (B)	575	△ 39	△ 200	△ 471	△ 1.78
増減額 (B-A)	233	246	86	108	
増減率 (%)	68.2%	—	—	—	

3. 差異の理由

(1) 連結業績

当連結会計年度の売上高は、ホテル業界を取り巻く環境におきまして、継続的な円安基調が強力な追い風となり、インバウンド需要が劇的に拡大いたしました。日本政府観光局（JNTO）の発表によると、2025年の年間の訪日外客数は42,683,600人に達し、初めて4,200万人を突破して過去最多を更新しました。この記録的な訪日外客数の増加は、為替の円安水準や航空便の復便・増便等を背景に宿泊市場を強力に牽引いたしました。

このような経営環境のもと、当社グループは旺盛なインバウンド需要を最大限に取り込み、高稼働・高単価での運営を実現し、9,908百万円（前期比18.3%増）となりました。利益面については、増収効果に加え、効率的な運営体制の構築によりコストコントロールに努めたことが寄与し、営業利益は1,055百万円（前期比110.3%増）となりました。また、営業外収益として持分法による投資利益56百万円、違約金収入として59百万円、為替差益として3百万円を計上した他、営業外費用として貸倒引当金繰入額109百万円を計上した結果、経常利益は869百万円（前期比250.5%増）と、利益が飛躍的に向上いたしました。また、アゴラプレイス大阪難波の運営終了に関連する債務免除益を特別利益に計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は1,274百万円となり、前期に比較し大幅に増大しました。

(2) 個別業績

売上高は、宿泊事業の業績回復を受け、匿名組合収入として513百万円計上したことなどにより575百万円となりました。

費用面においては引続きコスト削減に努めたものの、販売費及び一般管理費において当社が保有する債権に対し、貸倒引当金繰入額として93百万円を計上するなどにより、営業損失は39百万円となりました。経常損失は営業外費用としてオーストラリアにおいて事業を行う持分法適用子会社に対する貸倒引当金繰入額170百万円を計上したことなどにより、200百万円となりました。また、特別損失として、事業損失引当金繰入327百万円を計上したことにより、当期純損失は471百万円となりました。

以 上